



丹波市立吉見小学校
 丹波市立前山小学校
 丹波市立南小学校
 丹波篠山市立今田小学校

丹波地域 まちの自慢 発信事業



令和3年度 小学校の「ふるさと学習」の紹介

丹波地域の小学校では、「ふるさと学習」を推進しています。

この「ふるさと学習」を通して、子どもたちは生まれ育った丹波地域に愛着や誇りを持ち、ふるさと意識を育てています。

そこで、平成28年度から、毎年4校の小学校の学習成果をクローズアップし、まちの魅力を順次発信しています。是非、ご覧ください。

兵庫県丹波県民局、兵庫県教育委員会丹波教育事務所
 協力：丹波篠山市教育委員会、丹波市教育委員会

ふるさとに学ぶ

～今田の「みりよく」発見～

今田に住む人々に出会い、^{こうりゅう}交流し、
ふるさとの魅力^{みりよく}を再発見^{さいはっけん}する活動を通して、
今田が大好きな子どもたちを^{はぐく}育んでいます。

1・2年生
今田の自然に学ぶ



今田の生き物紹介 (和田寺住 職さん)



大きな栗畑発見

サギソウが咲き、めずらしいハッチョウトンボやカスミサンショウウオが
住む今田の自然環境^{しぜんかんきょう}を、体験^{たいけん}を通して味わいつくしています。
学校の裏山^{うらやま}やビオトープも素敵^{すてき}な学びの場^{ちいき}。地域の生き物にくわしい方に
教えてもらって、子どもたちは今田^{いまだ}を自慢^{じまん}に思っています。

ビオトープで生き物発見



ふるさと講演会^{こうえんかい} ～今田の自然～
全校生がビデオ会議システムで視聴^{しちゆう}

3・4年生 今田の農に 学ぶ



たねう 種植え



ていしょく 定植



えだまめしゅうかく 枝豆収穫



くろまめしゅうかくとだつりゅう 黒豆収穫と脱粒

地域の^{だいきほのうか}大規模農家さんに^{でし}弟子入り。丹波篠山名物・黒豆を育てました。
 農業に携わる方の^{のうぎょう たすさ}高齢化が進む今田地区の農業を元気にしたいと^{あつ}熱く思いを
 語る農家さんと出会い、子どもたちは大きな力をもらっています。
 農産物直売所「^{のうさんぶつちよくばいじよ}こんだ旬菜市 農」で、農家さん、お店の方、お客さんにイン
 タビューを実施しました。お客さんの^{しっし}求めに応じて^{もと おう くふう}工夫する農家さんの^{すがた}姿が見
 ええました。



農家の方にインタビュー

くろう 苦労や
工夫は？
よろこ 喜びは？



お店の方にインタビュー

定番の
やさい
野菜が
よく売れる



お客さんにインタビュー

どこから
来られ
ましたか？

5・6年生 丹波焼に学ぶ

今田の一番の^{しまん たんば やき}自慢・丹波焼。産地の^{さんち かまもと}窯元さん
 たちの^{かすかす わざ}数々の技、仕事に対する^{しせい}姿勢や、丹波
 焼への^{あつ}熱い思い、お客さんへの^{やさ}優しさにふ
 れ、^{はたら}働くことのすばらしさを感じています。
 丹波焼を守り、もっと知ってほしい、そして
 今田を^{はってん}発展させたいという思いが、子どもた
 ちに生まれています。



さいこ のぼり 最古の登り窯へ



かまもと 窯元さんのお店へ



かまもと 窯元さんの工房へ



はいど 坯土工場へ

学び、創り、感じ、広げる

めぬぎの宝 稲畑人形



稲畑人形は、丹波市氷上町稲畑の地で赤井若太郎忠常によって江戸末期につくり出されました。稲畑でとれた青色できめ細かく粘り強さが特徴の「赤井粘土」を用いた土人形は、節句を中心として人々に親しまれてきました。4年生では、ふるさとに伝わる稲畑人形の歴史や携わる人々の思いを知り、自分だけの稲畑人形を土からつくっていくことを通して、ふるさと、めぬぎ※の魅力について考えていきました。

稲畑人形について知ろう



「稲畑人形ってなんだろう?」「他の人形とどんなちがいがああるのかな?」この学習を始めるにあたり、自分たちの知っていること・調べたいことを出し合いました。みんなが知らなかったことは、『丹波偉人伝』を読んで調べたり、実際に5代目である赤井君江さんにお話を伺ったりしました。稲畑人形の歴史や5代目赤井さんの伝統を守り続ける気持ちを知り、「自分たちも早くつくりたい…!」という気持ちが高まりました。稲畑人形には節句人形を中心にたくさんの種類がありますが、学問の神様である「天神さん」をつくることになりました。

粘土づくり

「稲畑の土ってすごい!」土を細かく砕くところから、稲畑人形づくりは始まります。自分の体と同じくらいの大きさのかけやを使ってこぶしほどの大きさに砕いた後、木づちでさらに細かくします。そして、ようやくできた細かな土に水を混ぜ、こね続けることで稲畑人形づくりにかせない粘り気が出てくるのです。「あんなにサラサラだった土がねばねばになった。」「これが、赤井さんが言っていた日本一の粘り気か!」とこれまで学習したことを実際に感じる事ができました。



形づくり

約2週間寝かせて粘土が完成したら、いよいよ形づくりです。天神さんの乗る牛をよりリアルにつくるため、地域で牛を育てておられる山本さんのもとへ見学にも行きました。

「牛って背中が器みたいになってるんやな」「首が太かったで」と見てきた牛を思い出しながらかつくりことができました。「天神さんになあれ」と思いを込めながら粘土を引っ張り出し、形をつくりました。乾燥させたら、色塗り開始です。



色塗り・目入れ

筆で細かく着色していきます。徐々に色が着いていくにつれ、「自分だけの稲畑人形や」という思いも高まります。特に目入れは、人形に命を吹き込む大切な作業です。赤井さんを学校にお招きして、分かりやすく教えていただきながら、気持ちを込めて描きました。



学んだことを伝えよう

これまで学んできたことをタブレットでまとめ、全校生へ向けて発表しました。特に伝えたかったことは、稲畑人形がぬぬぎの宝である意味です。

「土づくりの大変さを知ってもらうには、実物をつかって劇をしたらどうかな?」「クイズにしたら、1年生にも楽しんで知ってもらえるかも!」と、グループごとに工夫して、発表することができました。発表を終えると、他学年から「自分が住んでいる地域に、こんないいものがあったんだ!」「私もつくってみよう」といった感想がたくさん出ました。発表の様子映像は、後日、お家の方にも配信しました。

学習を終えて（児童の感想より）

- 全ての作業が大変だったけど、その大変さよりも自分で一からつくった喜びの方が勝ちました。
- 赤井さんが言った「私がこのともしびを消してはいけない」という言葉から、ぼくのやる気に火がつけました。ぼくは、その言葉があったから稲畑人形を最後までつくり出すことができましたと思います。
- ぼくは、赤井さんから「5代目を継いでくれる人?」と聞かれたとき、「ぼくが絶対に6代目になる!」と思いました。学習を終えて、色塗りなど難しい作業もあったけど、やっぱり思いは変わらず、ぼくが6代目になりたいと思いました。



前山発！！ 自然にやさしい野菜ファーム



丹波市市島地域^{たんば しいちしまちいき}といえば、「有機農業^{ゆうきのうぎょう}」が有名です。前山地区^{さきやま}でも長年^{ながねん}有機農業^{せつ}に積極^{きよくてき}的に取り組まれている方がおられ、毎年^{まいね}ゲストティーチャーとしてお招きしています。本校では3年生が指導^{しどう}を受けながら栽培^{さいばい}し、調理^{ちようり}して自分たちが育てた有機^{そだ}野菜^{やさい}を美味しく味わっています。

畑の土づくり作業^{さきょう}



有機肥料^{ひりょう}と有機石灰^{せっかい}を畑にし
 っかり混ぜ込みます。混ぜ込
 むことによって、植物^{しよくぶつ}の成
 長^{ちよう}に必要な養分^{ひつよう}と空気^{ようぶん}を土の中
 に取り込ませます。

ニワトリ小屋と有機野菜の畑、アイガモの水田の見学^{すいでん}

ニワトリのふんも有機肥料の一部になります。ニワトリを平飼^{ひらが}いし、健康^{けんこう}なニワトリのふんを肥料として使っています。（平飼いとはケージ（鳥かご）飼いでなく、平らな地面^{たい}の上^{はな}で放し飼いの状態^{じょうたい}で飼育^{しいく}する方法^{ほうほう}）

また、アイガモ農法^{のうほう}で栽培している水田も見学させていただいています。



畝づくりと種まき作業^{さきょう}

水はけと通気性をよくし、植物が根を張りやすくするために畝^{うね}を作ります。種^{たね}を3粒ずつ、間を空けながらまきます。



まび 間引き作業

芽は、他の芽より大きくなろうと互いに競争し合いながら成長します。その中で一番元気な芽を残して、他の芽は全部摘み取ってしまいます。元気な芽に周りの養分を独り占めさせて、どんどん大きく育てます。



ゲストティーチャーから有機農業のお話を聞く

ニワトリなどのふん（有機物）は土の中で虫や微生物によって堆肥となります。その堆肥の養分で植物が育ち、その植物をニワトリや牛などの家畜が食べて、ふんをします。そのふんは養分となり植物を育てます。このように、自然と調和し、化学肥料や農薬などを使わず、そこに生きる様々な生き物と共生しながら、繋がっていく農業を有機農業といいます。



しゅうかく 収穫とクッキング

地域資源を生かした農産物の加工・販売をされている事業所の方にゲストティーチャーとして来ていただき、学校の畑で収穫した有機野菜でクッキングを行いました。味付けを含む調理方法をすべて教わりながら取り組み、毎年クッキングを楽しむと同時に有機野菜を美味しくいただいています。



**有機野菜作りを通して、自然と共に生きる前山の心を
感じ取ることができました。**

見つけよう 深めよう かな 奏でよう

～つながる

人と自然と地域と

吉見のハーモニー～



よしみしょうがっこうでんとう きんかん ちいき ね
吉見小学校伝統の金管バンド。地域に根ざし、地域とともにある
この伝統は 1 年生から少しずつ すぐ はぐく かくがくねん おう
日々の学びが、美しいハーモニーへとつながっていきます。

見つけよう♪

おもちゃまつりをしよう (1年生)

地域で拾ってきた木の实や落ち葉などをつかって、4つのグループに分かれて遊びを考えました。

自分たちの身近なところにある自然の物を使って遊びを広げることができました。地域の自然のよさをあらためて感じました。



発見！吉見地区「町たんけん」(2年生)

吉見地区にある図書館、郵便局、ホームセンター、菓子工場直売所に見学に行きました。それぞれの場所で、びっくりポイントを発見！「百聞は一見にしかず」市島地域の生活には欠かせない場所で、実際に働いておられる方からお話を聞き、子どもたちの表情もイキイキしていました。



深めよう♪

吉見米作り調査隊☆ (3年生)

吉見地区で米作りが盛んなのは、地域の自然に関係があるのではと考えました。環境調査を行った結果、吉見地区の川にはきれいな水が流れていることが分かりました。また、きれいな水を生かして、おいしいお酒を作っているお店があることや安心して安全な有機農業が行われていることを知りました。地域の自慢できる所を知っていく活動は、「川のゴミを拾いたい」など、地域を大切にしようという思いにつながっていきました。



安心安全な町 吉見 (4年生)

「吉見は安全なのか？」自分たちの住んでいる町が安心して過ごせる町なのか調べました。吉見地区の町歩き点検を行い、「交通」「火災」「水害」「避難」「地域の方の取組」の5つの視点から、安心して過ごすための工夫を調べました。これらの活動を通して、地域の人とつながることも安心安全なまちづくりに大切なことに気づきました。



かな 奏でよう♪

みんなで受け継ごう！金管バンド！ (5, 6年生)



本校では、41年前から金管バンドの伝統が続いています。ここまで受け継がれてきたのは、金管バンド活動が地域にねざし、地域に育てられているからです。また、児童一人一人が、伝統を守るために、日々の練習を欠かさないこともその理由です。先輩から後輩へと演奏技能だけでなく、活動に向かう姿勢や仲間とともにやり抜く心も引き継がれています。

地域に出かけてユニセフ募金活動を行っています。5年生の金管バンド演奏をバックに6年生が募金活動を行います。地域では毎年恒例の行事になっており、この日のために、1年かけてお金を貯めてくださる方もおられます。



令和3年度 指定校の学校紹介



丹波篠山市立今田小学校



学校教育目標 ふるさと今田を誇りに思い 自立して未来に挑戦する今田っ子の育成
～「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」「学ぶ意欲」～

創 立 明治6年

児 童 数 116名

特 色 日本六古窯の一つ、「丹波焼」発祥の地であり、毎年学校の登り窯「あけぼの窯」を使い、全校児童が作品を焼成している。自然豊かで貴重な動植物が生息しており、児童も保護活動にかかわっている。

所 在 地 丹波篠山市今田町下小野原61 TEL 079-597-2019 FAX 079-597-2119
E-mail el-konda@school.sasayama.jp



丹波市立南小学校



学校教育目標 自分や友だち、地域の良さに気づき、自ら学び続ける子の育成

創 立 明治2年（卓立舎・卓然舎・日就舎・赤城校の前身・維新舎として設立）

児 童 数 111名

特 色 自然豊かで、加古川の河川沿いに立地し、オオムラサキの飼育や野鳥の観察、稲畑人形など地域に根付いた学習を展開、自分達の地域や環境を大切にす教育に取り組んでいる。

所 在 地 丹波市氷上町佐野530 TEL 0795-82-0011 FAX 0795-82-7022
E-mail minami-es@tamba.ed.jp



丹波市立前山小学校



学校教育目標 自治自立の力を伸ばし、みんなとともに未来を拓く 前山っ子の育成
～個に応じた支援で自己肯定感を高める～

創 立 明治7年

児 童 数 77名

特 色 丹波市豪雨災害の経験を踏まえ、3年生から有機農業や大杉ダムの利用、紫陽花や栗園等の復興プロジェクトなど授業に地域講師を活用し、地域と連携した防災教育に取り組んでいる。

所 在 地 丹波市市島町上竹田12-1 TEL 0795-85-0427 FAX 0795-80-3021
E-mail sakiyama-es@tamba.ed.jp



丹波市立吉見小学校



学校教育目標 自己を愛し 主体的に学び合う 吉見っ子の育成

創 立 明治6年

児 童 数 103名

特 色 自然や産業に恵まれた豊かな学びの空間で、地域とともにある伝統の金管バンド活動は、創立より41年目を迎える。また、タブレットパソコンを有効に活用した普段使いのICT教育にも積極的に取り組んでいる。

所 在 地 丹波市市島町上田222-1 TEL 0795-85-0017 FAX 0795-80-3025
E-mail yoshimi-es@tamba.ed.jp

令和3年度 チャレンジQの取組

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、11月23日開催予定であった「第10回たんばっ子!学びフェスタ」は開催を見送ることとしました。そのため、例年実施していましたが「まちの自慢発信事業」の指定校によるステージ発表を行うことができず、残念でなりません。ただ、チャレンジQだけは、昨年同様行うこととなりました。今年度は、昨年度の取組に何かプラスαできないかと考え、高校生に「動画問題」を作成してもらいました。実施方法は下記の通りです。

○今年度の実施方法

- ① 丹波教育事務所のホームページに問題を掲載。
- ② ダウンロード・動画を視聴して問題を解く。
- ③ 解いた問題を郵送、FAX、メールにて送る。
または、事務局に持参する。
- ④ 高校生が採点し、解答を返却する。



丹波管内の高校生や県民局、給食・食育支援センターが、動画問題を作ってくれました。



今年も、家庭や学校で問題にチャレンジし、例年と同様に多くの子ども達が応募してくれました（総勢284名）。子どもたち一人一人に高校生が心温まるメッセージを書い



応募してくれた子どもたちの中から抽選で30名に高校生が学校で作った手作りの品物をプレゼントしました。



今年度も、たくさんの応募をしていただき、ありがとうございました。来年度は、どのような形で実施していくのがよいのかを実行委員会で協議していきます。



丹波地域の学校マップ

丹波市立前山小学校

丹波市立吉見小学校



丹波市立南小学校

丹波篠山市立今田小学校

- 小学校
- 中学校
- 特別支援学校
- 高等学校

※学校名に続く()は、発行年度を示す

[発行・編集]

兵庫県丹波県民局

〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原688
TEL 0795-73-3718 FAX 0795-72-3077

兵庫県教育委員会丹波教育事務所

〒669-2341 兵庫県丹波篠山市郡家451-2
TEL 079-552-7486 FAX 079-552-6034
URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~tanba-bo/>

[発行日] 令和4年2月

